

【背景と目指す姿】

- 高根沢玉ねぎ部会は、令和元年度の生産者は10名、作付面積は505aとなっている。このうち加工・業務向け出荷は8名、470aであるが、**作業全般、特に収穫作業が大きな負担となっており、規模拡大が進まず、安定販売の阻害要因になっている。**
- そのため、加工・業務向け出荷者による研究会を設置し、**高根沢・さくら・塩谷地区の栽培体系や栽培規模に最適な機械化体系の導入を進め、3年後の令和4年度に、作付面積10haを目指すものとする。**
- また、加工・業務向けの出荷量が倍増することから、取引先の拡大や取引ロット拡大を進め、より強固な産地形成に取り組む。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(令和元(2019)年度):4.7ha ⇒ 目標(令和4(2022)年度):10ha

2 主な取組内容(令和2(2020)～令和4(2022)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の実演会やほ場見学会を開催し、新規栽培者を確保 ・市町と連携した「人・農地プラン」に基づく集積等の調整促進
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・経営規模に適した収穫機、定植機の選定、導入。 ・関連機械導入のための先進事例調査を行い、作業の外部委託
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・作柄の安定のため品種比較試験を実施するとともに、生育状況や出荷見通しなど産地情報に関し実需者との情報交換 ・各種商談会に積極的に参加し、販路を拡大 ・関係機関との連携を強化し、新規取引先の開拓



たまねぎの収穫作業



ピッカーによる拾い上げ